

研究課題

学ぶ意欲を高め、確かな学力を身につける生徒の育成

副題

～学習指導と学習環境の充実を通して～

学校名	喜界町立第二中学校
所在地	〒891-6233 鹿児島県大島郡喜界町上嘉鉄3520
学級数	3
児童・生徒数	21名
職員数/会員数	12名
学校長	井之上 良一
研究代表者	平野 征作
ホームページ アドレス	http://www12.synapse.ne.jp/kikaidaini/



1. はじめに

本校は、全校生徒 21 名の極小規模校であり、個別の指導・支援が行いやすく、学力面においては、諸学力調査等の結果がどの学年、どの教科においてもおおむね全国の平均レベルにある。しかし、少人数ゆえに、発表・表現する活動を深めることが難しく、思考力・判断力・表現力の育成に課題が見られる。

この課題を解決していくためには、日々の授業において知識や技能を活用する学習活動を充実させることが大切であり、生徒の発表・表現活動を高めていく手段として ICT を積極的に活用していく必要がある。例えば、実物拡大機やプロジェクターを活用して図表や写真などを大きく示すことにより、生徒が同じ視点で考えたり話し合ったりすることができるようになり、意欲的に学ばせることが可能になる。また、発表媒体として、生徒がそれらを活用することにより、説得力のある発表や効果的な表現をすることができるようになり、発表力や表現力を高めることにもつながっていく。

本校の研究・実践は、後述するように学習指導の工夫・改善にとどまらず、学習環境の整備・充実も視野に入れたものである。したがって、実践は多岐にわたっているが、本稿では、紙幅の関係で学習指導の工夫・改善を中心に報告する。

2. 研究の目的

前述した生徒の実態を踏まえ、本校では、平成 21 年度から「学ぶ意欲を高め、確かな学力を身につける生徒の育成～学習指導と学習環境の充実を通して～」と設定し、生徒の思

考力・判断力・表現力を伸ばすことを主眼に、「活用する力」を育成する授業の在り方を研究・実践している。

「確かな学力」とは、基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな課題に積極的に対応し、解決する力のことであり、その育成のためには、次のような視点が不可欠であると考えた。

- ① 生徒一人一人の学ぶ意欲を高めることが大切であり、そのためには、生徒の内的環境（人間関係や生活習慣等）や外的環境（設営や掲示、学校緑化等）を充実させる必要がある。
- ② 各教科の指導の中で、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、それぞれの知識・技能を活用する学習活動を充実させる必要がある。

本研究の中心は、上記②の各教科における知識・技能を活用する学習活動を充実させることにあり、それを可能にする有効な手段として ICT を効果的に活用していきたいと考えている。そして、ICT の活用に相乗の効果を生み出すために、生徒を取り巻く学習環境にも着目し、その整備・充実に取り組んでいくことにした。具体的には、生徒の学習意欲の向上を目指して生活リズムを整えたり、豊かな人間関係を築いたりしていきけるよう指導・支援を進めていくことにした。

3. 研究の方法

- (1) 生徒の発表・表現活動を充実させる観点から、授業における発表・表現の場の設定と「発表話型」を生かして話

合い活動を活性化させる取組を推進する。

(2) 生徒の発表・表現活動を充実させる観点から、授業研究を中心として情報教育機器の効果を検証し、指導法の工夫・改善を図る。

(3) 生徒一人一人の学ぶ意欲を高める観点から、豊かな人間関係づくりや生活リズム指導など、生徒を取り巻く学習環境の整備・充実を推進する。

4. 研究の内容

(1) 学習指導の工夫・改善

① 「授業共通実践4項目」の実践と発表話型を生かした話し合い活動の活性化

各教科の授業の中で生徒の発表・表現する活動を充実させるためには、何よりも問題解決的な学習を展開することが大切であると考え、授業の展開に発表・表現する場を位置づけた「授業共通実践4項目」を設定し、共通実践に取り組んだ。また、一人一人の発言を大切に、発言がつながり、話し合い活動が深められるようにするために基本的な発表型である「発表で高める二中の授業」を各教室に掲示して実践化に努めた。さらに本年度は、年度当初に生徒一人一人に発表することや発表話型の大切さを理解させ、発表や話し合い活動に対する意欲を高めるために「発表話型訓練授業」を特設して実施した。

② ICTの活用環境の整備と効果的な活用の視点

研究助成を受けることになったことを機に、校内 LAN の工事を行うとともに、普通教室に常設のパソコンとプロジェクターを設置した。これにより、インターネット上にある様々なサイトに接続してデジタル教材を日常的に使うことができるようになった。また、「教育用画像素材集」については、いつでも簡単にアクセスできるように職員室のパソコン画面にショートカットを作成した。

そして、各教科等の授業において、大きくは以下の3つの視点から ICT の活用研究を進めることにした。

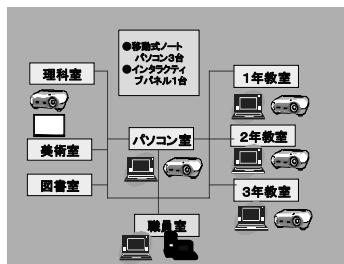


図1 校内 LAN と情報機器の設置状況

- ① 集中力を高めるための提示等を目的とした活用（国語や英語の教材文等を映し出すなどの活用）
- ② 思考の充実を促す教材の提供を目的とした活用（社会や理科の授業で比較や観察のために画像資料等を映し出すなどの活用）
- ③ 技能・表現の向上を促す環境の提供を目的とした活用（体育や音楽の授業で学習のモデルを提示したり、生徒が学習活動を再生したりするなどの活用）

③ ICTを活用した授業実践

【事例】英語科 単元 Unit7「My favorite Movie」 (本時10/10)

○ 目標

映画「E.T.」で印象に残ったシーンについて、自分なりの理由や感想等を付け加えながら説明する「ストーリーリテリング」を通して、正しいイントネーションで話すことができる。また、自分の言葉で言い換えたり発表話型を工夫したりしながら、全体として一貫性の高い英文で表現することができる。

○ 本時で考える「活用する力」

- ・ 聞き手にとって効果的な発表となるよう、これまで身に付けてきた語彙や文構造を活かして自分の言葉で言い換えたり発表話型を工夫したりしながら、全体として一貫性のある英文で表現する力
- ・ 発表者に対する評価や感想等を即興で表現し、伝える力

○ 実際の授業の様子

生徒たちは、自分なりに工夫して一貫性のある英文を完成させ、練習段階から発表にいたるまで意欲的にストーリーリテリングに挑戦していた。また、お互いの発表に対する評価や感想を伝える活動にも喜々として取り組んでいた。



写真1 パワーポイントを活用した導入



写真2 ストーリーリテリングの発表

(2) 学習環境の整備・充実

① 豊かな人間関係づくりを目指した実践と生活リズム指導の充実

生徒がコミュニケーションスキルや自己有用感を高めるとともに、豊かな人間関係をつくり、意欲的な学校生活を送ることができるようにするために、「アサーショントレーニング」や「構成的グループエンカウンター」などの実践に継続して取り組んだ。



写真3 養護教諭による生活リズム指導

また、基本的な生活習慣を確立し、学習に意欲的に取り組むことができるよう、毎学期始めの1週間を「生活リズム確立週間」として設定し、生活設計表の作成に取り組ませた。この週間の中で、生活リズムが心身の成長に及ぼす影響や帰宅後の時間の使い方について具体的に指導し、生徒一人一人

に応じた生活設計表を作成できるようにした。

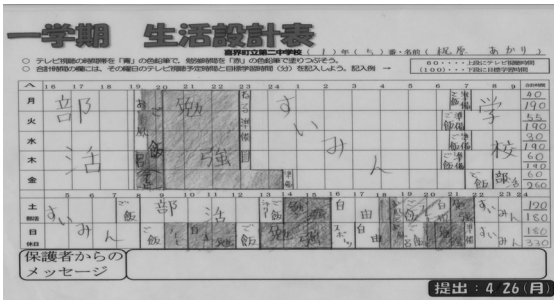


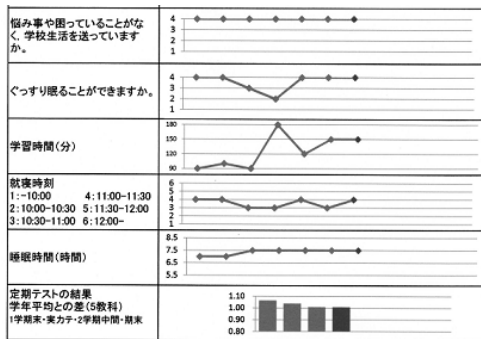
図2 生活設計表

② 「自分振り返りカード」による学習面・生活面の実態把握と活用

生徒が学習面や生活面の課題の改善に主体的に取り組んでいけるようにすることを目指して、毎月末に学習面と生活面の取組状況を自己評価する「自分振り返りカード」(頑張りお知らせカード・心と体のチェックカード)の実践に取り組むことにした。集計結果は、個人票の形で生徒一人一人に還元するとともに、教師は個別の状況を把握する資料として活用した。個人票については、グラフ化して示すことにより、生徒が自分自身の課題を一目で把握して翌月の目標を立てられるよう工夫した。

頑張りお知らせカード	1年								計			
	1	2	3	4	5	6	7	8	◎	○	△	×
朝学習は時間いっぱい最後まで取り組んでいますか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	12	8	1	
チャイム前に着席し、授業の準備をしましたか。	△	◎	◎	◎	×	◎	◎	◎	11	6	3	1
発表活動を用意して、積極的に発表や質問をしていますか。	◎	◎	◎	△	△	△	◎	◎	7	11	3	
授業に集中して、真剣に取り組めましたか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	13	6	2	
宿習は、自分で決めた時間に取り組めましたか。	◎	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	8	10	1	2
がしめるや番譜を工夫して、各教科バランスよく取り組みましたか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	14	6	1	
作業時間は時間いっぱい無怠に取り組めましたか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	14	6	1	
学校での係活動や専門部活動に責任を持って取り組んでいますか。	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	15	5	1	
◎よくできた		5	6	6	5	7	7	8				
○だいたいできた		7	2	1	2							
△あまりできなかった		1				2	1	1				
×全然できなかった			1	1	1							

図3 自分振り返りカード集計結果(学級用)



今月の目標を立ててみよう

12月は、もう少し学習時間を多く取り、また生活リズムを整え、規則正しい生活を送れるように心がけていこう。
。テストの点数もとんと下がってきているので、がんばりたい。冬休みにあわせて残りの学期を楽しく過ごしたい。

図4 自分振り返りカード集計結果(個人用)

5. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ① ICT を活用した授業を生徒は楽しいと感じており、日々の授業に活気が見られるようになるとともに発表意欲も確実に高まってきている。
- ② 本県独自に実施している「基礎・基本」定着度調査や全国標準学力検査(NRT)の実施結果から、前年度と比較して相対的に学力が向上してきていることが分かった。

表1 学力に関する調査結果

〈「基礎・基本」定着度調査 H23.1実施〉			
実施年度	1年	2年	
平成21年度	49.5	54.5	
平成22年度	54.5	51.5	

※ 県全体の5教科平均通過率を50としたときの指数で表示(1・2年生のみ実施)

〈全国標準学力検査(NRT) H23.2実施〉			
実施年度	1年	2年	3年
平成21年度	49.1	51.5	52.3
平成22年度	54.3	51.0	52.0

5教科の偏差値平均で表示

また、「基礎・基本」定着度調査においては、複数の教科で思考力、表現力に関する観点の通過率が前年度と比較して向上していることが分かった。

(2) 今後の課題

- ① 生徒一人一人の思考力・判断力・表現力を向上させるためには、その土台となる基礎的な知識・理解を一層確かなものにしていく必要がある。こうした観点から、今後はパソコンを活用したフラッシュ型教材の開発も積極的に進めていきたい。
- ② 本校で実践に取り組んでいる生徒スピーチ・ブックトーク(ともに全校朝会で実施)等において伝えたいことを効果的に表現するためにパワーポイントを活用させるなど、生徒によるICT活用を授業外の場にも広げていきたい。